編集部＝取材・文
interview & text by LIFE work
□□□＝写真
photographs by aaaaaa

T・A・バロン

作家の現実、出版の未来。

**あああ

「私は自然の豊かな場所で育ちました。小川を探検したり、木に登ったり、りんごを採ったり、どろんこになったり。身近にあった自然は、私自身の形成に深い影響を与えています。挑戦的で冒険的な生き方、さらに深い精神的な生き方をいつも考えています。穢されていない自然は、人間が凛として立つにはふたつとない最高の場所。星たちに圧倒されて時間は瞬く間に過ぎるけれど、すべては自然のなかにしっかりと組み込まれています。すべては移ろい行く季節、キツネの足跡、雁の飛翔につながっていきます。自然の中では私たちはとても小さく、またとても大きく感じることができます。宇宙の一部でもあり、ものごとの原型であり、ミステリーでもあります」

バロン氏はこれまでさまざまな活動をしてきた。山小屋を作り、オックスフォードで学び、成長するビジネス経営に携わり、家庭を持った。しかし、書くということだけはいつも続けてきた。

「5年生のときに私は自分で雑誌を作りはじめました。タイトルは『The Idiot's Odyssey』。イーグル・スカウトのスピーチとエッセイの大会で優勝したことから、ワシントンで大統領に会ったこともあります。事業を経営していた頃には、朝4時に起きて書きものをして、会議の間にも構想を練り、タクシーの後部座席で走り書きをしたこともよくあった。最終的に私は選択を迫られ、自分がいちばん好きなことをすることにしたのです。人生はあまりに短くて、自分の情熱に従うことしか選べませんから」

作家というのは、最も大変な職業だと彼は語る。しかし、何よりも楽しめる仕事だとも。作家は例えば、魔法使いマーリンの仕事と同じくらいマジカルであり、人生をいちばん楽しめる生き方だという。なぜなら、ものごとをしっかり書くためには周りの世界をくまなく注意深く観察し、細部にまで感覚を働かせて隠れた意味を読み取らなければならないから。

「オックスフォードにいた頃、私は自分の最初の小説への非難の手紙42通をバスルームに貼りました。このとき、私の作家としての自信は粉々に砕け散ったのです。ここから抜け出すのに7年の歳月を要しました。ニューヨーク・タイムズに投書を少し書き、自分のジャーナルを書き続けました。クリエイティブなことは何もありませんでしたが、書くということが自分の人生を生きていくプロセスの中でどれほど自分自身を助けているかということがわかりましたし、いまでもはっきりと記憶に残っています。思いと経験を言葉という表現媒体に転化していくという行為が、どれほどものごとをより深く理解させてくれるかということです」

彼は最近、3部作『ザ・グレイト・ツリー・オブ・アバロン』をついに完成させた。ほかにも新しい作品のアイデアをいくつか温めている。また、映画『ザ・ロスト・イヤーズ・オブ・マーリン』にも全面的に協力。とにかく忙しい毎日だ。彼のウェブサイト(www.tabaron.com)では、新しい本について最新の情報も紹介されている。

「ものを書くという自分の夢を追いかけていていちばん良いことは、言葉、場所、登場人物、ジレンマやアイデアに命が吹き込まれるということです。本当に生き生きとしてくる。そうなれば読者の心の奥底に私の言葉が触れて、長く留まってくれるというチャンスも生まれます。かつてないほどにつよく自分の存在を感じることができる。じつは、私が書いた最初の本は出版されませんでした。しかし、そんな経験の中で私は小説を書くという作業について非常に多くのことを学びました。大切なことは、決してあきらめないこと。創作したいという情熱があれば、それを実現するために精一杯の努力をすることです」

T. A. Barron
コロラドの牧場のある田舎で育つ。ローズ奨学生として各地を旅し、ニューヨークでベンチャーの資本ビジネスに成功。こののち本業を作家、環境保護活動家へと変えた。彼の自然の不思議に対する情熱、人間性と私たちのかぼい地球に対する深い懸念、すべての人々にある潜在的なヒーローとしての可能性を信じる気持ちが作品を通して表現され、多くの本が国際的なベストセラーとなっている。

『マーリンV 失われた翼の秘密』(主婦の友社) T.A. バロン著／海後礼子訳　＊ある晩、ダグダがマーリンのもとを訪れて不吉な予言をつげた。2週間後、"黄泉の国"とフィンカイラが危険なほど近づいてリタガウルひきいる軍勢が、フィンカイラに攻めこんでくる。決戦では、多くのものが苦しみ、命を落とすだろう。決戦に勝利するためには、おまえが真の敵をたおさねばならない。マーリンの真の敵とは？フィンカイラは滅びるのか？勝てる望みのない戦いに、マーリンは命をなげうってのりだした。マーリン全5巻、注目の最終第5巻（1～4巻も同社より発売中）。